

究極の磨きが生む「和乃塔」 まろやかに潤む艶が高級志向のお施主様に高評価

企画・制作 (有)翼石材 (高松市庵治町)



翼石材の新ブランド「和乃塔」(庵治石細目)。徹底的にこだわった究極の艶を放つ。高級志向のお施主様に評価が高い。商品説明など、同社による墓石小売店の営業フォローもあり、提案しやすい

究極の磨き仕上げ(鏡面仕上げ)に徹底的にこだわってつくられる「和乃塔」の発する艶が墓石購入者の心をひきつけている。

まるで漆塗りのような高級感を漂わせながら、まろやかな水分を湛えたぷるんとしたやさしい潤みさえ感じさせる。その艶は、単なる表層的なものではなく、石の奥底から湧き出すような表情・質感をもち、それだけに見える者、触れる者に大きな感動を与える。実際に数百万円の予算が倍以上に膨らんだ建立例もある。

この「和乃塔」は、(有)翼石材(青木秀敏社長)が企画・販売する墓石製品である。昨年夏の庵治ストーンフェアで発表後、同年に東京で開催されたエンディング産業展2016にも出展。以来、究極の磨きを追求した墓石として、業界内外から多くの注目を集めている。産地内の協力工場で試行錯誤を繰り返し、約十年をかけて創造した同社のブランド墓石である。

同社はこれまでも、鎌倉時代の石塔を手本としながら、新たな創造性を含ませて手仕事でつくる「世伝石塔シリーズ」などのブランドを打ち出してきた。叩き仕上げ等の伝統的な手

仕事を重視する「世伝石塔」と、究極の磨きにより価値を生み出す「和乃塔」。両極端の性格ともいえるが、共通しているのは、本物へのこだわり、高級志向。両者が顔を揃えたことで、商品ラインナップの拡充とともに、同社のブランド展開が次のステップに踏み入ったことを実感する。

「和乃塔」は徹底した研磨作業の工程管理と、熟練の腕をもつ庵治石工業（協力工場）によって完成される。製品化までの約十年、その陣頭指揮を執る同社企画室の高橋晋也氏はいう。

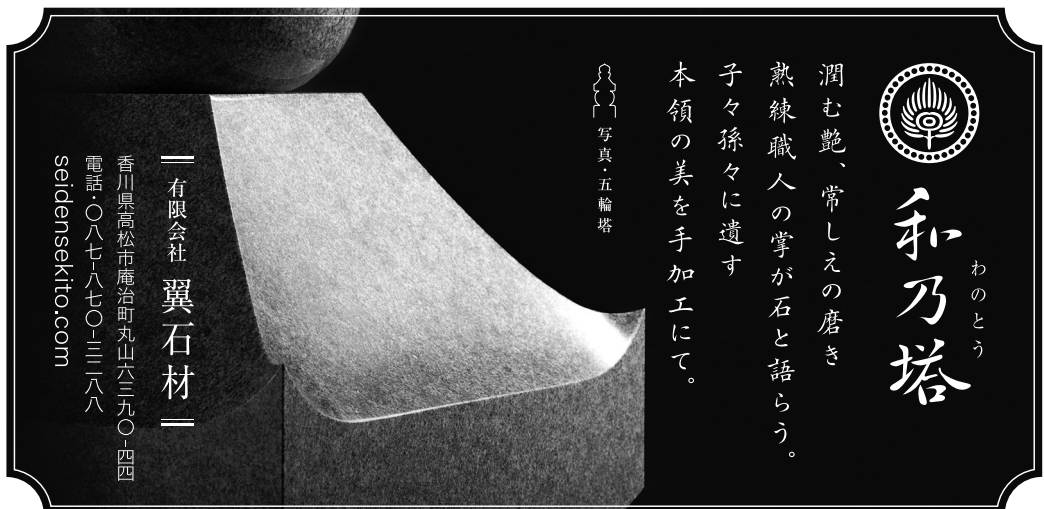
「研磨作業は粗から最終仕上げまで約二十工程を要します。同じ粒度の研磨盤でも、サイズや樹脂の硬さを変え、すべての研磨盤にしつかりと仕事をさせています。各工程で砥汁の状態を見極めながら石の個性に合わせた微調整を行ない、ツヤ下工程からは研磨面の温度も計測しながら丁寧に仕上げていきます」

高橋氏は独自に工程表をつくり、研磨盤の種類や工程ごとの作業時間、研磨方向、当日の天気、気温等まで細かく記録して最高の艶を追い求めた。当初は協力工場ですべての研磨機を使用し

たが、石の個性によって必要な微調整ができないうことから断念。熟練職人の協力を得て手動研磨機で仕上げてゆく工法に至った。

「その結果、庵治石細目の場合、ツヤ下工程で89〜92、最終工程で96〜98、ときには100の光沢値を実現しています。『世伝石塔』と違い、『和乃塔』は工業製品との位置づけで、どの石でも高い水準の安定した艶が求められます。亀腹などの役モノは手磨きですが、これも同じこと。現在は協力工場の理解も進み、品質が安定しています」（高橋氏）

試作段階では筑波大学へ、石材表面の劣化実験の試料として研磨仕上げの庵治石を提供した。その後も研磨の探求を重ねるが、そこで得た高評価も「和乃塔」ブランドの確立を後押しした（論文「花崗岩墓石の風化に及ぼす表面研磨の影響…室内実験による予察」高屋康彦・八反地剛・松倉公憲、日本地形学連合機関誌「地形」第三十四巻第四号）。「和乃塔」は各地・各小売店の仕様やデザインに合わせた対応が可能で、石種は庵治石細目、本御影石などの高級志向のお客様をターゲットに絞る。お問い合わせは下記広告まで。



潤む艶、常しえの磨き
熟練職人の掌が石と語らう。
子々孫々に遺す
本領の美を手加工にて。

写真・五輪塔

わのとう
和乃塔

— 有限会社 翼石材 —
香川県高松市庵治町丸山六三九〇-四四
電話・〇八七八七〇-三二八八
seidensekito.com